

リアルタイムOS HI7000/4 ご使用上のお願い

SuperHファミリ用リアルタイムOSの使用上の注意事項を連絡します。HI7000/4は、SH-1, SH-2, SH2-DSP, SH-2E (FPUを除く), SH-2A, およびSH2A-FPU コアのMCUをサポートしています。

- SH-1コアのMCUを使用する場合の制限事項
- サンプルプログラムの変更

1. SH-1コアのMCUを使用する場合の制限事項

1.1 該当製品

HI7000/4 V.2.01 Release 00～V.2.02 Release 01

1.2 内容

SH-1コアのMCUを使用する場合、可変長メモリプールの管理方式として新方式を使用し*、可変長メモリプールを操作するサービスコールを呼び出すと、カーネル内で一般不当命令例外が発生し、システムが正常に動作しない場合があります。

- * 以下の手順で設定できます。
コンフィギュレータの「可変長メモリプール情報の変更」ダイアログボックスの「新管理方式 [CFG_NEWMPL]」チェックボックスをチェックする。
新方式の詳細については、ユーザズマニュアルの「可変長メモリプール」の項を参照ください。

1.3 回避策

可変長メモリプールの管理方式として新方式を使用 (CFG_NEWMPLを選択) しないでください。

1.4 恒久対策

改修予定はありません。

本内容はSH-1コアのMCUを使用する場合の制限事項になります。

2. サンプルプログラムの変更

1.1 該当製品

HI7000/4 V.2.02 Release 00以降

1.2 内容

V.2.02 Release 00から、サンプルプログラム"nnnn_expent.src"および"nnnn_intdwn.src"をあわせて1つのファイルに代えて、"kernel_exp.src"（割り込み・例外処理ルーチン）を添付しました。

V.2.02 Release 00以降のバージョンを使用する場合は、"kernel_exp.src"を使用してください。

[免責事項]

過去のニュース内容は発行当時の情報をもとにしており、現時点では変更された情報や無効な情報が含まれている場合があります。ニュース本文中のURLを予告なしに変更または中止することがありますので、あらかじめご承知ください。